

皆様

ご無沙汰しております。

おかげさまで元気にすごしておりますが、少子化の影響と私学優先の文科省の方針の下、地方国立大学法人はリストラの真っ最中で、多種多様な会議におわれています。

二月幹事会、欠席となりますこと、ご容赦願います。

さて先のメールで、産学官連携に関する原社長のご意見を、大変興味深く拝見いたしました。

10月にデンマークを訪問し、40年間採用されている Industrial Ph.D について、企業・大学・政府機関にインタビューしてきました。

簡単にご紹介すれば、企業と大学院博士院生の研究テーマが一致した場合、政府から三年間の院生への給与と、企業や大学に研究経費が助成されるというものです。

院生は（就職の義務はありませんが）修了後に当該企業に就職することも多く、企業の技術力の蓄積にも貢献しています。

自然科学系だけでなく、国際海運の効率化やコペンハーゲン空港のハブ化など、社会科学系のテーマも多いようです。

デンマークはじめ北欧諸国は（物価も）税金も高く有名ですが、有効に使われているものだと感じました。

このようなシステムは、日本の建設業の技術革新にも応用できそうです。

残念ながら日本では文科省が「スーパー連携大学院」という名称で電気通信大学など六大学において似たシステムを試行しているのですが、デンマークでは経産省に相当する政府機関が担当しており、企業の技術力向上という視点ではいささか見劣りしています。

当面はともかく、長い将来では、より技術力の強みをもった建設業が是非必要になると存じます。

皆様のご参考になれば幸いです。

末筆ながら、二月幹事会の御盛会をお祈りしております。

弘前大学・佐々木 栞